



明小だより

平成22年4月
横須賀市立明浜小学校
校長 渡辺 文
NO. 1

新たな出会い 新たなスタート

始業式・入学式の日、生憎の雨となりましたが、平成22年度が始まりました。

始業式で担任発表を行っている時、放送室まで子どもたちの歓声が聞こえてきました。新しい一歩を踏み出す、うれしさや期待が感じられました。

子どもたち一人一人の今の思いを大切にしながら、これからの1年間を、より充実した毎日となるよう、そして、次ページにある学校目標に向け、全職員で力を合わせていきたいと改めて感じます。ただ、学校教育は、保護者の方々、地域の方々のご理解とご協力なしには進められません。学校で行われる行事や授業参観等でお子さんの様子を見ていただくとともに、是非、その他にも、学校にきていただく機会を増やしていただき、明浜の教育を見ていただきたいと思います。

そして、その後の懇談会や個人面談という機会を生かして、率直なご意見・ご感想をお聞きしたいと思います。また、今年度も一層、懇談会を充実させ、子育てに関する情報交換、年齢に応じた子どもへの関わり方など話し合っていきたいと願っています。

何とぞよろしく願いいたします。

さて、今年は、気温の変化が激しく、未だに肌寒さを感じる気候が続いていますが、そのお陰で例年より少し長く桜を楽しむことができました。

新学期2日目以降、2年生以上の学年は、「学年・学級開き」としてお花見の会を、森林帯を会場に行いました。楽しく和やかに学年・学級での生活をスタートでき、新しい友だちのことを知るきっかけにもなったようです。

1年生は、校庭での遊び方について、少しずつ覚えてく予定ですが、天候が悪かったために、まだ、休み時間に外で遊ぶことができていません。「早く外で遊びたいなあ。」そんな声が聞こえてきますが、アスレチックや遊具を使っての遊びができるようになるためには、ルールを知ったり、考えたり決めたりしながら、大勢でも安全に楽しく遊べるような指導が必要だからです。間もなく、校庭で思い切り遊べるようになります。

毎朝、私は、行政センターの信号のところで登校指導を行っています。安全に横断できるよう指導しながら、登校の様子を見てみると、上級生が、1年生の手を握りながら、あるいは、前と後ろで1年生を挟むように歩きながら、笑いかけ、話しかけている様子が見られます。年下に気を遣いながら、かばいながら歩く姿に、上級生としての頼もしさを感じます。

同学年の友だちとの横の関係から、時にはぶつかり合いながらも素直に自分の思いや考えを伝えることの大切さを学び、登下校やたてわり活動などでの年齢の違う学年との縦の関係から、遠慮、配慮、我慢、思いやりという気持ちを学んで行くこと、これらが、小学校という集団だからこそ培える『社会性』です。

『学力』と『社会性』 学校だから学べることを大事に指導していきたいと思います。

